

教室(診療科)紹介 (97)

情熱と創造性

耳鼻咽喉科学講座 (佐倉)

教授：鈴木光也
 准教授：太田 康
 吉田友英
 医局長：池宮城慶寛

東邦大学医療センター佐倉病院耳鼻咽喉科(当科)は、平成3年9月の開院時から長年にわたりめまい診療を専門とし、地域医療に貢献してきた。平成21年9月より耳鼻咽喉科内に難聴・めまい回復センターが開設され、東京大学より鈴木光也が初代センター長(教授)として就任し、平成24年4月からは耳鼻咽喉科学講座(佐倉)(当講座)の教室責任者となっている。平成27年4月現在、教授1名

(鈴木光也)、准教授2名(太田 康、吉田友英)、助教3名(医局長：池宮城慶寛、池宮城美由子、高浪太郎)、レジデント4名(田中稔文、田村裕也、北澤吉悠、戸塚華子)、常勤嘱託医師1名(野村俊之)の総勢11名で診療に当たっている。

診療の特色

難聴・めまい回復センターでは特に聴力改善手術に力を入れ、それまで行っていた慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎の術式を改良するとともに、新たに先天性外耳道閉鎖症、耳硬化症、耳小骨奇形に対する手術や人工内耳植え込み術を開始した。その結果、手術件数の伸びは顕著となり、難聴・めまい回復センター開設前には年間20数例であった慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎の手術件数が現在では年間140例近くとなり、また耳硬化症の年間手術件数も0件から10件に増加した。人工内耳植え込み術は施設の制限から成人のみを行っているため症例は限定されるが、千葉県中央～北部を中心に紹介を受け、これまでは年間2例のペースで手術を行ってきた。昨年より人工内耳適応症例の紹介が増加し、現在は5件の手術待ちである。また平成24年度から鼻・副鼻腔手術治療にも力を入れ、慢性副鼻腔炎や良性腫瘍に対する内視鏡手術はもちろんのこと、新たにアレルギー性鼻炎に対する手術療法や鼻涙管狭窄に対する手術も開始し、それぞれ年間20件以上の実績がある。



前列左から太田准教授、鈴木教授、吉田准教授、野村医師
 後列左から池宮城(美)助教、田村医師、高浪助教、田中医師、戸塚医師、北澤医師、池宮城(慶)助教

教育および研究

医学教育のゴールは高い臨床レベルとコミュニケーション能力を備えた良き臨床医，医学の発展に貢献できる優れた研究者の育成である。卒前教育として系統講義，臨床講義，実習を行っているが，特に手術見学実習では思考力とコミュニケーション能力を育むよう指導している。卒後教育では耳鼻咽喉科専門医試験合格が当面の目標であるが，臨床研修と同時に基礎研究にも興味を持つことは臨床の幅を広げる意味でも必要である。当講座ではリサーチマインドにあふれた耳鼻咽喉科医の育成を目指している。現在の研究テーマは，ヒトを対象とした研究として，好酸球性副鼻腔炎組織の免疫組織学的検討，更年期の平衡障害や加齢性平衡障害の前向き研究などを佐倉病院内で行っている。これらの研究成果によって近年2名の教室員に学位が授与された。動物を用いた基礎研究は，加齢性難聴の病態解明，内耳機能に対する性ホルモンの影響，薬剤性難聴の病態解明と治療，血液—内耳関門など内耳に関するテーマである。残念ながら東邦大学医療センター佐倉病院には動物実験施設がないため，これらの研究は他施設と共同研究で行っている。東邦大学習志野キャンパスとの共同研究が望ましいが，設備面で乗り越えるべきハードルがあり，現在は東京大学耳鼻咽喉科と一緒に実験している。研究体制を構築し

始めてからまだ間がないが，これまでの研究成果は耳鼻咽喉科一流英文誌にすでに掲載，もしくは掲載に向けて執筆中である。平成27年度の文部科学省研究費の採択状況は基盤研究C（継続）2件，若手研究B（新規）1件であった。

医療連携への取り組み

平成24年度から病診連携の強化を目的に当科が中心となり，佐倉耳鼻科医会，八千代耳鼻科医会とそれぞれ年1回の医療連携研究会，当院眼科と耳鼻科が中心となり，佐倉眼科，耳鼻科医会との涙道研究会を行ってきた。また学術面での向上と大学間の情報交換を目的に，千葉大学，帝京大学ちば総合医療センターに声をかけ千葉3大学医療連携フォーラムを年1回開催してきた。

おわりに

当科の手術件数は年々増加し，この数年間で倍増している。難聴・めまい診療に力を入れていることもあり，難易度の高い耳科手術症例が増えている。鼻内視鏡手術もさまざまな疾患で行われており，高度の手技を習得することが可能である。情熱をもった元気の良いレジデントの入局を大いに歓迎したい。

(教授：鈴木光也)